

みんなで語る会報告書

- 対象団体 : 市内団体代表者
- 開催日時 : 令和元年8月29日(木)(19時00分～20時30分)
- 開催場所 : ふれあいプラザなのはな館 2階 第1・2会議室
- 参加者数 : 【市内団体の代表者】20団体, 35名
【指宿市役所】18名
市長, 副市長, 教育長, 総務部長, 総務部参与(2名),
市民生活部長, 健康福祉部長, 産業振興部長, 農政部長,
建設部長, 建設部参与, 教育部長, 水道事業部長, 山川支所長,
開聞支所長, 市長公室長, 秘書係長, 秘書係主任
【総計】53名

(市長あいさつ)

平成3年の旧指宿市の第三次指宿市総合振興計画の中で当時語られている市の将来像は、今目指しているものと全く同じである。地域中心街を作って、活発にしていけないといけない、健康志向の福祉都市をつくっていかないといけないということも書いてある。指宿港の整備の必要性が書いてある。30年近く経ってようやく本格化している。土地開発公社が購入した新田周りの土地の活用については、武道場、サッカー場、市民プール建設と書いてある。まさに今進めている。これが30年近く前の戦略プロジェクトで30年後を見通したプロジェクトである。これらは、これからの未来を担う青少年たちのための事業である。

この第三次総合振興計画は、地域の代表者が真剣に考えた重みのある計画である。様々な立場の方が来場しているが本音で話し合いたい。

(指宿市老人クラブ連合会)

地域包括ケアシステムについて、高齢化率の上昇が進む中で、高齢者が孤立していく可能性がある。現在、女性を中心に見守り活動をしているが、これに公民館長を中心とする男性の方、若い方を入れて高齢者を支える組織ができるのではないかと考えている。

老人クラブの目標の1つでもある健康活動の一環としてグラウンドゴルフ大会を開催しており、今年はいもん山麓ふれあい公園のレクリエーション広場が会場となっている。練習でも使いたいのだが、何とか工夫してもらえないものか。

(健康福祉部長)

地域包括ケアシステムについて、社会福祉協議会を中心に公民館長、老人クラブ、地域の有志の方々の協力をいただきながら、地域の独居老人や要介護者などの住宅を地図に落と

し込んだ「支えあいマップ」づくりを進めている。地域の情報を共有するための事業として公民館長等に紹介していきたいと思っている。

(産業振興部長)

公園使用料金についてのご相談だと思う。フラワー公園やふれあいプラザなのはな館の芝生広場を市民が使用する際は無料となっているが、かいもん山麓ふれあい公園は、条例の中で施設使用料を徴収することとしている。大会の件については、減免申請等があるので相談してほしい。

(市長)

開聞地域には、住民が集まれる場所がかいもん山麓ふれあい公園の1か所しかない。開聞庁舎の建て替え事業では、子ども達や登山客、地域住民が集まれる広場を作りたいと思っている。唐船峡の周りも遊べる場所として整備したいと思っているので、開聞の方達と話し合っていきたい。

地域包括ケアシステムは大きな問題である。南薩医療圏構想という会議に出席すると少子高齢化が進む中で、病院、ベッド数、地域の医療をどうするか、話し合われている。それぞれの市の思いがあるから非常に難しいが、指宿市の考え方を伝えて、安心して子どもを産み医療が受けられる。そして、地域で包括ケアシステムが受けられることを考えている。大きな課題のため、また報告させていただく。

(指宿市環境衛生協力会)

マイバッグ等の契約等については、エコライフのグループが頑張っているが成果が上がらない。環境衛生の見地から、マイバッグ、マイクロプラスチック等については、市をあげて取り組まなくてはならない大きな問題だろうと思っている。

(市長)

女性連での取り組みも紹介していただけないか。

(指宿市地域女性団体連絡協議会)

生活学校が中心になって私たちが手伝いながら、PR していたが、生活学校がなくなっただけから活動が少なくなっている。

指宿は女性団体が少ない。よその地域はJAとか生活学校とかPTAとかいろんな団体が女性団体を作っていて、いろんな活動をしている。日常的に色んな活動がもっと活発にできるように、団体同士の連携を図るため、団体をまとめる手伝いをしてほしい。

(市民生活部長)

レジ袋の削減やマイクロプラスチックの問題については非常に重要な問題であるにとらえている。これまで、レジ袋削減のために、指宿市エコライフ推進会議において、エコバッグ推進のチラシ作成と配布、また、大規模小売店舗への協力依頼など、尽力いただいているが、店舗の方々にも様々な事情があり、有料化が進んでいない状況である。今後の国の有料化施策等を踏まえて、市として協議会なりを立ち上げて推進していく方法も考えられるので、各種団体や関係機関と協議を進め、検討したい。

(指宿市環境衛生協力会)

協議会を立ち上げて市が先頭に立って進めていかないといけない問題だと思っている。

(市長)

指宿が先進的な取り組みをしないといけないという考えを持っている。様々な団体と連携しないといけない。今まではその中心が女性連であったが弱体化しているので女性団体のあり方について行政がテコ入れしないといけない。

メリットがなくても地域貢献しようという意欲がないと今後難しい。社会教育課を含めて団体の育成に本腰を入れないといけない。なのはな館を団体が活動するための活動の場としたい。

(自治公民館連絡協議会)

地区の住民が減っていることから財政が先細りしている。一方、手すりや畳替え等、高齢者に優しい公民館づくりもしないといけない。自治公民館の改修の際に市からの補助金をもらっているが、該当地区の自己負担が足かせになり、十分な補助となっていない。補助基準について検討してほしい。

(総務部参与)

現状は、要綱に基づいて補助金を交付しているが、算定方法については少子高齢化等を勘案して再度検討する。

(市長)

公民館が変わらないと地域は変わらない。柳谷地区、いわゆる「やねだん」のように地域を興す「興民館」にならないといけない。一方で、厳しい現状もあるため、地域を10年維持するための見直しを行なうことを条件に公民館の建設に関する支援をすることも必要だと思う。公民館長の方々の意見を聞きながら検討する。

(指宿市民生委員・児童委員協議会連合会)

伊佐市が保育園・幼稚園の給食費を全額負担するようだが、指宿市は検討しているか。

また、夏休みで孫達が帰ってくるが指宿市は遊ぶところが少ない。各校区の保護者会でもそういった意見があったので検討してほしい。

(教育長)

学校のプールが老朽化しており、学校のプールと市のプールのあり方を検討したいと考えている。子ども達の遊ぶ場所については、COCCO はしむれを案内しているが飽きてしまうというのが課題である。遊べる場を案内するプログラムを作成できれば良いと思うので検討してみる。

(産業振興部長)

かいもん山麓ふれあい公園には、プール、そばの館、キャンプ場があるので利用してほしい。

(総務部参与)

整備中のサッカー場の横に遊具を備えた多目的広場ができる。早ければ再来年の1月にオープンするので利用してほしい。

(健康福祉部長)

現在、指宿市は一時預かり保育や延長保育に力を入れており、給食費の補助まで至っていない。

(市長)

給食費については、担当課はやりたいと思っているが、財政面の問題があるので状況を見極めて検討する。県内で市民プールがないのは指宿だけである。過去の計画でも市民プールをつくと書いてある。財政の問題もあるが、屋根付きで1年を通して使え、健康に役立つような、子育てに役立つようなプールが必要だと私は思っている。遊び場が少ないのは事実である。十二町地区は、地域の方々が集落に点在していた墓地を1つにまとめて跡地を公園にした。地域の協力があればすぐにでもしたい。

(菜の花商工会)

過去の計画というのは、旧指宿市の構想であって、今は合併後である。旧指宿市への一極集中はどうだろうかと思う。今の山川の地熱については、山川にとって非常にありがたいと思っている。施設の分散化についてはどう考えているか。

(市長)

合併の時の18年1月1日、均衡ある発展を目指して1市2町が合併したが、人口が減っ

てきて、新たな計画を練り直したのが指宿市都市計画マスタープランである。分散させるのか、ある程度集中させてバス利用できるように整備するのか、そこが一番の問題だと思う。

山川について私は、大成小学校周辺のエリアを学園都市として子どもからお年寄りまで楽しめる広場をつくりたいという考えを持っている。

マスタープランの中で山川地域の基本方針が3つある。山川漁協を中心とした農・漁・工が共存した魅力あふれる山川港地域をつくるというのが一番目。二番目は、長崎鼻、砂むし温泉、鰻温泉を周遊する観光コースをつくる。三番目が環境に優しい地熱発電を活かし、再生可能エネルギーに関する意識啓発の発信源になるとともに、環境エネルギー政策を牽引する地域をつくる。これが山川の方針である。これを計画で終わらせるのではなく、地道に実現していかないといけない。今の意見を重要な問題として受け止めさせてもらう。

(指宿市 PTA 連合会)

PTAは組織として限界がきており、地域のコミュニティを活用すべきと考えているが、それぞれの団体の活動情報が全く入ってこない状況である。小学校を拠点として各団体が連携できればと考えているが市長の考えはどうか。

(市長)

平成22年に策定された「協働のまちづくり指針」というものがある。「活動場所、各団体が交流や会合を行い、情報収集、提供、印刷など事務作業をできる場の提供に努める。」と書いてある。市民活動を促進するために、各団体の自主自立性を尊重して活動を支援するために、これを実現しないといけない。公民館を中心にPTA活動にも支援できるような体制をつくりたいと思う。

「地域コミュニティ計画」の中で「地域が抱える問題を住民みんなが共有し、課題解決のための将来ビジョンを地域住民自らが策定する必要がある。」と書かれている。この構想を地域におろすために、積極的に地域や会合に出ていきたい。

(男女共同参画推進懇話会)

指宿市では一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりを掲げているが、今、子どもの人権については、深刻な問題になっており、虐待、不登校、いじめなど、自死など子どもを取りまく環境が悪化してきている。行政だけでなく、地域を取り巻くいろんな人たちが協力しないと解決できない社会問題である。

県と南薩地域で子ども食堂のプロジェクトが立ち上がった。指宿市でも子どもの居場所づくりのために子ども食堂のプロジェクトを立ち上げて、子ども一人ひとりの状況にみんなまで対応する子どもを中心とした話し合いの場を設けてほしい。

(市長)

なのはな館で子ども食堂ができないか担当課と検討したことがあるが、今はトレーニングジムがあるのでできない。市民会館が完成したら子ども支援、男女共同参画という観点で活動の場をつくらないといけないと思っている。

(指宿市身体障害者福祉協会)

1つ目は、障害者の市職員への雇用を積極的に進めてほしい。2つ目は、当会への会員加入のバックアップを強化してほしい。

(総務部長)

市としても教育委員会としても積極的に雇用している。養護学校の生徒の皆さんに市役所の仕事を体験してもらい雇用に繋げたい。

(副市長)

農林水産省と厚労省が支援している農福連携事業というのがあり、これを活用して農業における課題、例えば人手の確保。あるいは障害者等における課題、例えば、障害者における就労支援であったり、所得向上であったり、こういった双方にとって課題解決におけるメリットがあるという取り組みがある。こうした取り組みを積極的にこれから推進したいと思っている。

(市長)

指宿の養護学校は高等部がなかったため県の教育委員会に直接お願いに行った。その条件として、卒業した高校生が地域で自立できる場所をつくることであった。市職員としての採用の努力をしているため、他市と比較して障害者の雇用率は高いと思う。

(指宿市身体障害者福祉協会)

非常に高い。

(健康福祉部長)

現在、手帳の交付時に加入を勧めるチラシの配布をしてバックアップしている。今後も周知をしていきたい。

(指宿商工会議所)

少子高齢化が引き起こす色々な問題の質問があったが、人口減少に対して、移住や子育て支援のような対策を考えているのか。

また、現在、働き方改革、最低賃金、消費税引き上げと商売をしている人たちにとって非常に厳しい環境である。人手不足への対策を考えているのか。

(副市長)

15年後くらいには人口が3万人を切ることになりそうだということで、雇用を確保するためのプロジェクトを立ち上げている。雇用をつくること、人の流れをつくること、若い人達の希望を叶えるような施策をすること、安全安心なまちづくりを地域と連携した形でつくりあげること。この4つの事業がそれぞれ干渉し総合的に進める。人口減少を食い止めることはできないが、減少をなだらかにしていくために展開している。

(産業振興部長)

労働力の確保について、山川高等学校、指宿商業高等学校の生徒を中心に地元企業のガイダンスを行なっている。年明けには、南薩地域も含めて企業を紹介する。

昨年12月に市と鹿児島銀行が地方創生に係る相互連携に関する協定を締結している。その中で、外国人技能実習生の受入ネットワークづくりについて研究していく。外国人雇用に関する相談会や受入支援を一元化するため、関係団体と連携できるように取り組んでいく。

(市長)

企業誘致という話が議会で出たことがあるが、指宿はアクセスの面で難しい。企業誘致をした自治体は、企業が撤退した後は大変である。そのため、地場産業を育てようとやってきたけれどなかなか育たない。そこについて今、副市長が推進している。

子どもを産み育てるためには、産科医が必要である。指宿は指宿医療センターがあるため、里帰りお産ができる。来年からは3人体制にしないといけないと考えている。

外国人雇用について、以前は中国からたくさん労働者が来ていたが、中国は賃金が上がり、今はベトナムからたくさん来ている。5年したらベトナムからも中国同様来なくなるのではないかと思っている。AI技術をホテルや農業に利用するなどして仕事のあり方の見直しが必要になってくる。皆様からの意見を伺いながら子育てのできる環境をつくっていきたい。

(指宿市観光協会)

高齢者の生きがいづくりも魅力あるまちづくりの1つの要素であると思うため、市長が提唱する「健幸のまちづくり」に賛成している。

「やねだん」の話がでたが、徳島県の上勝町では、葉っぱを料亭の料理の添え物として売り込むという高齢者が働けるビジネスモデルをつくった。高齢者にお金儲けをさせたら元気になる、医療費も減少した。指宿はオクラが長期間とれるので、高齢者に畑を与えてオクラの収穫をさせてはどうか。収入があることで生きがいにつながると思う。

(市長)

「やねだん」では、各家庭にキンカンの苗を配り、収益の60%を公民館が40%を各家庭でもらうようにした。収益で高校生をハワイに行かせようという趣旨であった。この取り組みによって地域がまとまり、子どもの非行が大変であった上小原は学力が上がり、家を建てる人が増えた。

(指宿市老人クラブ連合会)

錦江町では椿油をつくり、販売している。成功例が近くにあるので池田でも考えないといけないと思う。

(市長)

これからは自治会も商売していかないといけないのかもしれない。

(指宿医師会)

医療の世界でも看護師不足が深刻である。指宿商業高校に准看ができないかというアイデアが先日の医師会で話題となった。実現可能か。

(市長)

高校再編等を含めてそういった意見は出てくると思う。非常に大切なことなので地域の願いとして県教育委員会等で学校再編を含めて提案する必要があると思うので、その際は応援してほしい。

(自治公民館連絡協議会)

国民宿舎跡地に宿舎ができると聞いているが、具体的な情報を聞きたい。

また、指宿広域汚泥リサイクルセンターの処理水について、一時的に新川に放流したいという話があったのが去年の6月であったが、現在も流れている。この2点について市長の見解を聞きたい。

(市長)

国民宿舎跡地は、来年の5月までに建てるという条件で岩崎産業が購入している。約束を守ってもらうようお願いしている。設計図はできており、着工するだけの状態である。

(副市長)

国民宿舎跡地の中に放流管が通っており、跡地開発のために放流管を撤去する必要がある。一時的に河川放流しているが、今後は永久放流に変えないといけないと思っている。現在、水質・水量の調査をしているため、地域の方々に説明したいと思っている。

(市長)

また、相談させてほしい。

開聞の指宿広域汚泥リサイクルセンター、穎娃の最終処分場、山川と丈六の指宿広域クリーンセンターを分散してつくった。その際には、協力金を払っている。川尻の場合も漁協を含めて様々な思いがあるのは聞いているので解決したいと思っている。